

より良い合唱創りを目指して

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇〇〇〇 (音楽)

1 はじめに

本校は1学年普通科5クラス、国際科3クラスの計8クラスの学校である。芸術は音楽、美術、書道3科目の中からの選択制となっており、一年次で芸術Iを必修選択することとなっている。単位制である本校では、二年次、三年次は数多くある選択科目の中から選ぶこととなるため、音楽における30名以上の一斉授業は、一学年の時にしか経験できない。

本校生徒の特徴は、真面目で努力家、おとなしい者が多い。与えられたものに対して惜しまず努力することができるが、「より良いものとするために」という視点から考えると、たくさんの可能性を秘めながらも、それを伸ばせない生徒たちも多く見受けられる。

音楽の授業においては、何らかの楽器経験のある生徒も多く、簡単な楽譜であれば読める生徒も多い。また、歌唱においては中学時代の合唱で良い思い出を抱いている生徒が多く、歌うことには抵抗なく積極的に取り組む生徒がほとんどである。

授業を行う中で、常に悩んできたことは、完成度を高めるためにはどうしたら良いかということであった。自分の指導では、「形」にすることはできても「深める」ことが難しい。

この機会に、生徒たちが主体的に取り組む合唱を模索し、「歌ってハモって終わり」ではなく、更にもう一步踏み込んでみた。曲の設計図を共有して、更に発声にこだわり、一音一音積み重ねて創りあげるような合唱を目指し、研究することとした。

2 研究方法

- (1) 「初心のうた」(教育芸術社MOUS A掲載)に取り組む。ア・カペラで歌えるようにしてから、模範演奏を聴き、作詞者や歌詞の内容についての理解を深めていく。また、この「初心のうた」を課題曲とし、各クラス任意の曲を一曲、自由曲として設定し練習に取り組む。
- (2) 合唱発表会を企画する(課題曲:初心のうた 自由曲:各クラス任意の曲一曲)。取り組みの成果をステージで発表し、お互いに聴き合い、意欲を高め、今後につなげる。

3 指導内容

(1) 曲の設計図を作る

ア. 作詞者について

作詞者の木島始(1928~2004)が17歳の時に終戦を迎えた。「初心のうた」は悲惨な体験から「もう戦争はしない」という初心を忘れないようにと書かれた詩である。

戦時中の惨さ、凄まじさのエピソードを伝え、少しでも木島少年のやるせなさや怒り、そこから未来に対する希望といった感情を汲み取れるようにした。

イ. 歌詞について (P. 4 楽譜参照)

この曲は繰り返される言葉が多い。中でも「つきとめよう」や「まきなおそう」という語が多く使われており、生徒とともに「何を」つきとめよう、まきなおそうなのかということ考えた。また、「まちやくに」「まちやむら」「アジア」などの表現の変化にはどのような意味があるのかを考えた。更に、「ころしやつくりかりたてる」といった攻撃的な内容から「ゆめ」そして「みらい」に向けての前向きなメッセージを託すように心境が変化している。その変化を味わえるように読み込んでいった。

ウ. 曲想について

①歌詞と音形のつながりを考える (P. 3 プリント①参照)

この曲の中で、何度も繰り返されている語句「つきとめよう」や「まきなおそう」に与えられている音は、フレーズの中で最も高い音であることから、音楽的にも強調したい部分であるということがわかる。更に、リズムに着目すると、同じく「つきとめよう」が繰り返された際、倍の長さに引き伸ばされている箇所があり、音の高さだけではなく、リズムの変化でもメッセージ性は増すと考えることができた。この視点は、生徒の力で導き出すことは難しいが、そのような見方ができることを伝え、関心を持たせるようにした。(プリント①参照)

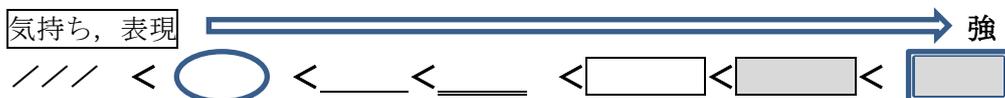
②イメージを記号と色であらわす

様々な変化を視覚化し、共有するために下図のような記号を用いた。(図1)

同じ言葉が繰り返されるときは、一回目より二回目の方がよりメッセージ性が強くなること、フレーズの山と言葉との関連性を踏まえること、曲中の強弱記号や曲想、その他変化を示す用語を見落とさずに作曲者の意図を汲み取ることに留意させた。その際、黒板には拡大した楽譜を用意し、随時書き込み、クラス全体で共有できるようにした。

また、色については生徒と話し合った結果、曲の冒頭は重苦しい様子であることから、「紫」から始めた。その後、第2連では、男声パートのみで歌われること、決然とした感じから「青」とし、希望を抱き始める部分から「芽吹き」をイメージして「緑」と変化させた。オブリガードによって少しずつ明るさが加わっていく印象を受けたため、「黄」をプラスして色合いを変えていった。曲のクライマックス部分はクラスによって設定した色は様々であったが、「金」、「オーロラ」、「白」、「銀」と明るく輝きのある色をイメージしたのは共通であった。

(図1)



プリント①

年 組 番 氏 名

初心のうた 木島 始詩

木島 始 (1928~2004)

東京大学文学部英文科卒。その後、都立高校で英語教諭を経て、26歳で専修大学講師に。また、

35歳の時に法政大学の講師となり、その後助教授、教授を経て定年退職。

黒人文学等の翻訳、詩集、児童文学、エッセイ等多数刊行。

「初心のうた」は木島始 17歳の時の作品。

「初心のうた」は『ふしぎな子どもたち-木島始少年詩集』に入っています。



※こんな順で、言葉や音楽の重みを変化させてみましょう

第1連

◆歌詞、歌の中で繰り返される言葉を抜き出しましょう

つきとめよう → 4回

しかも、最後は倍の長さになっていることに注目 (㉑小節目と㉒小節目)



※㉑小節目「星を見上げ」より㉒小節目「つきとめよう」の方が音が高い

「星」より高い音から始まる＝より強調したい、訴えたい気持ちであると考えられる

◆それぞれの声と強調記号(ディナーミック)のイメージについて考えよう

㉑ 女声、mp

イメージ さまよっている感じ、不安げな感じ、弱々しい感じ等

㉒ 女声+男声、mp

イメージ 怖い感じ、おどろおどろしい感じ、何か怒っている感じ等

㉒ 女声、男声、poco f

イメージ ぶつけようのない怒り、憤り等

◆第一連は3パートあるにも関わらず、ひたすらユニゾン(各パートが同一の音を奏でること)です。なぜ、作曲家はハーモニーをつけなかったのでしょうか。ユニゾンにすることでどのような表現をしたかったのでしょうか。

全員で同じメロディーを歌うことで、シンブルだが、その分パワーを分散させない強い気持ち、メッセーの強調、等

第2連

◆歌詞、歌の中で繰り返される言葉を抜き出しましょう

まきなおそう → 7回
しかも、最後は まきなおそう が 5回 → たたみかけるように何度も繰り返している

※㉑小節目「星を見上げ」より㉒小節目「まきなおそう」の方が音が高い
「星」より高い音から始まる＝より強調したい、訴えたい内容であると考えられる

第1連では「町や国」、第2連では「町や村」と規模が小さい単位になっている

一人一人が、狂ってしまった衝動を、確実に巻き直そう、正常化しよう!

そのためには!!

「隠れた鍵を探し当て」、「夢を動かす衝動」から巻き直していこう。。。

◆それぞれの声と強調記号(ディナーミック)のイメージについて考えよう

㉑ 男声、mf イメージ 意志、力強さ、たくましさ等

㉒ 全体 f: 「夢」という明るい前向きな言葉が出てきた。㉒の f との違いを考えよう
㉒の f は怒りや憤きを感じるが、㉒は生きるエネルギーがにじんでいる 等

㉑ piu f

イメージ 強い意志、強い未来への憧れ 等

第3連

㉑ どこを通ろうと → これまでは隣り合った音を行き来し、右往左往しているようだったが、ここでは、幅が様々なでこぼこのつながりとなっている。

どんな困難な道でも突き進んでいくぞ! 負けないぞ! という気持ちを現している。

「F」夢いっぱい、希望いっぱい、自分たちには未来がある!! どんな夢がある?

ドライブをしてみたい、素敵な彼氏と結婚したい、一人暮らしをしたい、自分の稼いだお金で海外旅行に行きたい、飲み会をやってみたい 等

だから、色は選んで当然。個人個人の夢の色を想像して歌ってみよう。

㉑ 一人一人の未来、夢見る未来は違うけど、たった一つ、これがなくては叶わない。それは、平和 であってこそ。

◆「初心のうた」の初心とは、「もう 戦争 はしない」と決意した『初心』を忘れないという思い。

混声三部

初心のうた

作詞：木島 銀 / 作曲：篠塚真富

とこをとおろし
ほしをみあげ
ひとりひとりつきとめよう
まふやくにのしきみを
ころしやつくりかたてる
くにとひとのしきみを

とこをとおろし
ほしをみあげ
ひとりひとりつきとめよう
わたしたちのまらいを
アシアのカみにうつる
わたしたちのまらいを

●2001年に混声三部合唱で発表されたこの曲は、03年には混声四部合唱版に書き改められた。その際、同じく木島銀の詩から「自由さのため」「むらさきあはれ」で発表された「泉のつらね」を選び、混声合唱とピアノのための「初心のうた」として出版された。

ritando(rit.): たんだん遅く poco: 少し
crescendo(cresc.): たんだん強く
pizz.: よりいっそう

(3) 合唱発表会及びリハーサルについて

本番前の最後の授業では、実際に校内の文化ホールで歌い、リハーサルを行った。会場の照明を落とし、ステージの出入りを含めて本番を意識して行った。また、実際にパートごとに歌っている様子を客席から聴き合い、声の響き具合や表現に関する確認を行った。

発表会本番は放課後に行ったため、音楽選択者ではない生徒や先生方が見に来て下さった。発表はお互いに聴き合うこととし、最後に全員に感想を書かせた。



合唱発表会の様子

リハーサルの様子

(感想抜粋)

- ・緊張してしまい、なかなか思うように歌うことができなかった。
- ・みんなの声がホールに響いてとても気持ちよく歌うことができた。
- ・まとまりのある合唱（1EG組）で素晴らしかった。
- ・本番を終えて、もう少しできたのではないかという悔しい気持ちがある。
できるならもう一度、本番をやり直したい。
- ・合唱，楽しかった！

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

千葉県立〇〇〇〇高等学校
教諭 〇〇〇〇〇

- 1 日時 平成26年11月4日（火）3限
- 2 学級 1年BH組音楽選択者（男子10名，女子26名，計36名）
- 3 学級観 男子，女子ともに素直で明るい生徒が多い。中にはおとなしい生徒もいるが，全体的にまじめである。合唱や音楽全般に興味はあるが，自信のなさから積極的になれない生徒も多い。
元気のよい生徒が数名おり，授業の雰囲気は明るくにぎやかであるが，集中力がなくならないように気をつけている。
- 4 題材名 より良い合唱創りを目指して
- 5 教材名 「初心のうた」（混声3部） 木島 始作詞／信長 貴富作曲
「言葉にすれば」（混声4部） ゴスペラーズ作詞／安岡 優，松下 耕作曲
- 6 指導事項 「A表現」（1）歌唱
ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り，イメージをもって歌うこと。
ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし，表現を工夫して歌うこと。
エ 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受して歌うこと。
- 7 題材の目標
歌詞から伝わるメッセージを読み取り表現を工夫するとともに，各声部のかかわりを感じながら歌う。
- 8 題材について
(1) 題材観
本校の生徒たちは中学時代に合唱の楽しさを味わった経験をしている者が多く，合唱が大好きな生徒が多い。しかし，合唱＝「大きな声で歌うこと」と捉えているように感じている。声の統一感や各声部の歌い方を揃えることを意識し，より整った合唱を経験してほしいと願い，この題材を設定した。
(2) 指導観
年度当初から発声練習や呼吸法，副教材にあるコールユーブンゲン（抜粋）を使い，正しい音程で歌うこと，のどの力を抜いてよく混ぜられた息と声の柔らかさを意識させながら合唱曲に取り組む準備を行ってきた。
それらの学習を生かしつつ，男子生徒が少なめであることから混声3部合唱の

「初心のうた」を設定し、難易度としては無理がなく、本題材に適していると考えた。また、クラスの自由選択曲として、難しいことを理解した上で、混声4部合唱の「言葉にすれば」に挑戦することとした。

9 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>①曲想と歌詞の内容との関わりに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②合唱に適した発声に関心をもち、それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①音楽を形づくっている要素（強弱、音色、速度、リズム、テクスチュア）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、曲想を歌詞の内容と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。</p> <p>②音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、合唱に適した発声の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。</p>	<p>①曲想を歌詞の内容と関わらせて感じ取り、イメージをもって音楽表現をするために必要な歌唱の技能（発声、言葉の発音、読譜の仕方）を身に付け、創造的に表している。</p> <p>②合唱に適した発声の特徴を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能（同上）を身に付け、創造的に表している。</p>

10 指導と評価の計画（15時間扱い）

時配	学習内容・学習活動	評価規準 【評価方法】
1－4時間	パート練習（初心のうた、言葉にすれば） ・曲全体を把握し、パートごとの旋律を理解する	関② 【観察】
5－8時間	旋律やリズムを中心とした合唱練習（初心のうた、言葉にすれば） ・リズムやハーモニーで関わりあっているパートを理解する	関①創① 【観察】

9-12 時間	よりよい音楽表現を目指す合唱練習 (初心のうた, 言葉にすれば) ・指揮, 伴奏と合わせ, 合唱のバランスやハーモニーを理解する	創②技① 【観察, ワークシート】
13-14 時間	初心のうた, 言葉にすれば の通し練習 ・発表会場でリハーサルを行う ・テンポの変化や強弱を理解する	関②技② 【観察】
15 時間目	まとめ, 反省 合唱の発表 (録画する) をし, 他のクラスを鑑賞する ※後日, クラスの発表を鑑賞し, まとめと反省を行う	関②技② 【観察, ワークシート】

1.1 本時の指導 (10 / 15)

(1) 目標

楽譜や詩をよく読み, 歌い方を合わせる。参考演奏を聴いたり, 詩のイメージを膨らませたりして歌い方を工夫する。

(2) 展開

時配	学習内容・学習活動	◇指導上の留意点◆評価規準【評価方法】
10	・前時の復習	◇これまでの練習を通して, この「初心のうた」がどのようなメッセージをもっているのか, 問いかけながら進めていく。 ・作詞者の生きた時代を想像し, 各自のイメージをふくらませていく。 ・各自, 前時に作成したワークシートを見直し, 詩や音楽の印象を確認する。
15	・前半部分 (8~4 2小節目) を, 各自のワークシートをもとに, パートごとや関わりのあるパートで歌詞や曲調からイメージにあう色を決める	◇パートで協力し, 一人一人が関わる。 ◆音楽表現の創意工夫②【観察】 ◇互いに歌い方がそろっているか。 ◇歌詞などが発信しているメッセージを表現できているか。(息のスピード感, 声の張り, テンションなど)

2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・前半部分を全体で歌う ◎全曲を通して歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく歌えていない場合はパートごとなどで確認をする。 ◇ピアノ伴奏をつけ、前奏が表現している様子（混沌とした感じ、緊迫感等）を感じ取る。 ・指揮者には各パートの歌い出しのきっかけを合図できるようにさせる。 ◆音楽表現の技能①【観察】 ◇本時で変化した点や、良かった点、今後の課題を確認する
3	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・プリント回収、片付け 	

(3) 本時の評価

◆音楽表現の創意工夫②【観察】

意見交換をする場において、歌詞や曲想をもとに自ら発言したり、他者の発言を聞き、それに対して対応したり反応したりしているか。

【評価においてCと判定される生徒への手だて】

意見交換の場で参加する意欲が持てるよう、細かく問いかけ、イメージを具体的に発言するため支援をする。

◆音楽表現の技能①【観察】

姿勢や顔つきが曲想にあったものであるか、歌詞や曲想を生かして抑揚をつけられているか。

【評価においてCと判定される生徒への手だて】

歌詞の情景がイメージできるような声かけをする。

4 考察

研究当初、色をつけて変化を視覚化したいということを考えたのだが、なかなか難しく、実は研究1年目ではたくさんの課題があった。その内容は、①生徒たちに12色も使わせたことから、まとめるのが大変になった②1か所に2色使う、色を混ぜる、グラデーションさせるなど様々な手法で表現され、集約が困難になった③色を決めるための作業時間がかかり過ぎたことが挙げられる。

その後、①使う色を少なくする ②生徒が作業する箇所を限定する といったご助言を頂いた。

また、視覚でよりわかりやすくなるように図で示すことを加えた。

この「図で示す」というユニバーサルデザイン的な取り組みは、7段階も作ってしまったが、実際にはもう少し少なくても良かったかもしれない。多すぎても混乱してしまうし、

強弱記号との兼ね合いをもっと練るべきだったのではと感じている。

しかし、これらの改善で、一語一語を大切に、音楽的表現や工夫をしながら歌うようになり、音楽的に内容を深める第一歩になったように思う。

更に、2年目の研究における課題は、楽譜選びの難しさである。3部合唱の譜面は男声部が高音域になり、生徒によっては、発声面で困難なことが予想されたため、混声4部の楽譜を準備した。すると、4クラス中1クラスだけ、音域が辛いので混声4部にしたいというところがあった。しかし、編曲の違いから言葉が途切れ途切れになる部分が多く、歌詞と音形のつながりを考えさせる上で、生徒に無理をさせてしまったように思う。

顔ぶれが毎年違う授業では、同じ楽譜、同じ内容で授業を展開することが難しく、楽譜選びの難しさを痛感した。

合唱を行うに当たり、今回留意したことは、「合唱をより深めるには」という点であった。そこで、各パートの役割を明確にすることと、自分の適性を知ること、「全体の中の自分の役割について」を考える場を設けられたことは良かったと思っている。例えば、アルトを選ぶ生徒の中には、歌うことに自信がないといった消極的な理由である生徒もいる。授業中は、全てのパートが絡み合いハーモニーとなることで、彩りが生まれるのだという点に少しでも気付いてくれたら、これまでの合唱経験をより深めることにつなげられたといえるのではないだろうか。

5 おわりに

今回、このような機会を頂き、拙いながらも授業における合唱の内容を高める研究に取り組むことができ、非常に良い勉強となった。生徒に言葉を投げかけたままにすることを改めて反省するとともに、様々なアプローチを模索し、実践し、改良する繰り返しの中で、新しい気づきがあり、自分自身も楽しく、嬉しくなった。

生徒たちは、歌詞の内容や曲の深さをよく考えずに歌っていた頃に比べ、曲についての理解を深めた後では、顔つきにも変化が見られ、とても驚いた。やはり、感情を表現できるようになると、生徒一人一人に、何らかの変化が見られるのだと再認識させられた。

今後の課題としては、生徒自身が試行錯誤しながら、より良い合唱を創り上げていきたいという主体的な気持ちを育てていきたいと考えている。

最後になりますが、貴重なご指導、ご助言を頂いた千葉県教育庁教育振興部指導課前指導主事植草貴久男先生、現指導主事松井小百合先生、教科指導員の県立君津高校青木美和子先生、また、一緒に教科研究員をされたお二人の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

参考文献：イラストでみる合唱指導法 竹内秀男著